漢字を覚える努力の重要性はいかほどのものか？

第２Ｑも３週間を迎え、漢字学習もユニット８を迎えようとしています。２年生で習う漢字は１６０字で、のこり４８字になりました。

Ｑ休み前後には、漢字のテスト合格を目指してみんな一生懸命漢字を書けるように練習していましたが、そもそも漢字を書けるようにする努力というのはこの時代に必要なのでしょうか？漢字はそれなりに読めて、タイピングさえできれば、自分で覚えて書く必要などないように感じるかもしれません。しかし、漢字学習に取り組むことは、教育的に非常に重要な資質を育てているのです。

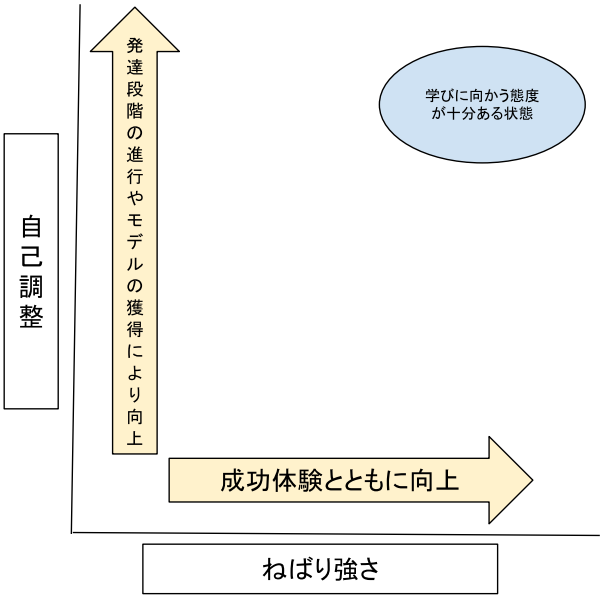
漢字学習で身に付けたい資質

ずばり、漢字の学習で身に付けたい資質は、「学びに向かう態度」そしてその中でも、特に「ねばり強さ」です。学びに向かう態度とは、やる気がある状態や前向きな気持ちをイメージされるかと思いますが、具体的な行動で考えてみましょう。

「やる気はあるし、授業がおもしろいから漢字は好きだけど、練習をしないから漢字を覚えられない」というのは、学びに向かう態度があるとは言えませんね。学びに向かう態度というのは具体的な行動を伴ってこそのものです。

その具体的な行動とは、**「自己調整を働かせること」**と**「ねばり強く取り組むこと」**です。

自己調整というのは漢字学習でいうと、次のようなイメージです。



①目標を決める（漢字テストで満点をとる！）
②方法や手順を決める（まずは練習プリントを解いて、間違えたものを練習しよう）
③計画を行動にうつす（実際に漢字練習をする）
④中間結果を振り返る（プレテストでは３問間違えたから、それを覚え直そう）
⑤最終結果を振り返る（満点だった！次のときはどうするとよりいいだろう？）

そもそも漢字を覚える効果的方法や手順を知らない２年生の児童にこれを求めるのは、酷ですね。自己調整はモデルの獲得と発達段階の進行を待たなければいけないので、その間は、大人が学習目標や方法、手順を調整してあげる必要があります。

ねばり強く取り組むこと

一方で、「ねばり強さ」は、低学年の児童でしっかりと身に付けたい資質です。
「できなかった漢字は覚えられるように練習する」「合格できるまでチャレンジする」という諦めず、根気よく努力することは、漢字学習と非常に相性がよいです。
点数がはっきりしているので、何度もチャレンジするうちに努力が結果に表れ、自身の成長を実感することができます。「できないことも諦めず練習すればできるようになる」ということを体験的に学ぶことで、子どもたちはねばり強く学習に取り組むことのよさを実感することができるのです。
一見厳しく思えるかもしれませんが、諦めずに努力すればできるはずのことをできないままにして先に進むと、できないことがどんどん増えていきます。なぜなら学びに向かう態度の片輪である「ねばり強さ」が身についていないからです。
（発達に特性がある子もいるので個別の対応は必要ですが、その見極めが重要です）
このねばり強さは、身に付けることができたら、他の学習はもちろん、社会に出た後も有意に働くはずです。そこに自己調整を働かせることができるようになったら、今の教育の目指す「主体的な学習者」そのものになります。

以上のことから、２年生の漢字学習では、ただ１６０個の漢字を覚えるだけでなく、次のような目標を立てています。

２年生の漢字学習の目標

・できないことも、練習すればできるようになるという自信をもつ。

・時に苦しくても諦めずに努力することはよいことだと実感する。

・新出漢字を覚える方法や手順を獲得する。

⇒漢字の学び方を学ぶ

すでに子どもたちは、この目標に到達しつつあります。以下のやりとりは第２Ｑの子どもの言葉です。すでにねばり強さが身に付き、自己調整を働かせ始めている子もいて感心します。今後の成長が楽しみです。

T：ユニット6，7の練習プリント作ったよ。

C：やったあ！

C：先生、漢字のテスト昼休みにやりたいからプリントください。

T：はい、〇点だったよ。あと少しだったね。

C：うわあ！前もここ間違えたんだよな

T：じゃあ次も間違えないように気を付けてね！

C：じゃあ次はやる前にこの漢字よく見てからやろ！